

実習を振り返って、教員としての学びから人としての学びまで多くのことを得ることができました。

授業見学では、ICT 機器の活用方法や生徒主体の授業方法を学びました。私自身、受けてきた教育がノートに書く、そして教科書を読み語句を学ぶことがメインの授業だったため、現場のタブレットの活用や授業内容の違い、特に社会科では、タブレットを使用して生徒が考えることを中心とする授業を行っており、驚きました。めあてを明示し見通しを持たせる授業や、Google スプレッドシートやロイロノートの共同編集機能で他者の考え方を参照しながら多様な考え方を知り、学びを深める授業、教科書やインターネットを使っても、個人でも友達と相談してもいい学習方法を定めない複線型の授業などの新しい教育や、先生がめあてや問いを提示して生徒が意見を書いたり調べたりすることがメインで先生の説明が最小限な生徒主体の授業構成を学びました。ただ、生徒が主体で考える授業になった分、思考回数や思考方法が少ない生徒をサポートするために机間巡視や資料等でのヒントの提示をしたり、インターネットで調べればすぐに答えが得られる分、自分で考える時間を確保したりと工夫が必要であることを学びました。また、ICT 化が進むことによって検索やキーボードで打ち込むことが多いため自分で考える、書くことが苦手になっていることや、タブレットを自由に使えるため授業中の集中が逸れやすいといったデメリットも感じました。ノートやワークシートなどと併用して書く機会をつくったり、不必要なときはタブレットを閉じさせたりする工夫が必要だと思いました。

教壇実習を行ってみて、実際に授業をすることの難しさを感じました。授業準備の段階でも、限られた時間の中で教えたこと考えさせたいことを、いかに要点を絞ってどう効果的に伝えるかとても悩みました。悩んだ末に授業としてやってみても、生徒や自分のスピードによっては焦ってしまい回答を誘導してしまうことも多く、生徒の注目を集める前に授業を進めてしまうなどの反省点もありました。他にも、机間巡視の際の声かけや生徒の意見を深める問い返しが慣れだけでなく臨機応変さや柔軟性、授業の到達点を常に意識しておく必要性や、少人数だからこそ全員の理解度が把握できるため授業の進みが難しいことを感じました。私は、指導教員にご指導いただいて、特に、生徒の回答を誘導しないこと、「難しい」と言わないこと、問い返しや声かけは生徒の意見を深めたりヒントをあげたりと生徒に考えさせるためにすること、板書は今日学んだことが一目で分かるものを作ることを学んだと同時に、実習を通して成長できた部分だったと感じます。

3 週間の教育実習を通して、実際の教育現場を経験して授業には先生独自の様々な工夫が盛り込まれていること、常に生徒を主体として思っていることを実感しました。授業に楽しそうに参加してくれたときや実習終了後に感謝の言葉や寂しいと言ってくれたことが本当に嬉しく、3 週間頑張ったよかったと思うと同時に、先生という仕事はとても素敵だと改めて感じました。